

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町858番地
自己評価作成日	平成 28年 1月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 2 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の定着も安定しているので利用者や家族との理解が深くなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平成15年に開設し12年が経過している。同敷地に法人の病院があり病院関係者と内部研修を実施し職員のレベルアップを図り、また受診や緊急時の往診など確保され、利用者、家族の安心感につながっている。管理者、職員はコミュニケーションが取れ信頼関係が構築されており、業務のやりがいにも通じて長期勤務者が多い。また笑顔が基本であると考え「笑顔から何かが生まれてくる」と職員全員で笑顔で接することを大切に、明るく笑顔あふれる家庭的な事業所となっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム浜っ子

(ユニット名) ひだまり

記入者(管理者)

氏 名 西内 美知子

評価完了日 平成 28年 1月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 本年度は新たに理念の見直しをし、意見を出し合い、皆で話し合った。 作った基本理念に基づいたケアができるように、月1回のミーティングで再度確認をし、実践に取り組んでいる。 (外部評価) 理念がマンネリ化していると感じたことから、職員全員で話し合い、新しい理念を作成し、今年1月からスタートしている。笑顔が基本であるとし「あなたに笑顔で（自分にされていやなことはしない）、あなたの笑顔で（自信を持ってもら）、あなたの笑顔で（その人らしい人生が送られるよう）」という理念を作成し、職員同士で声をかけ合ったり、またリビングに掲示し各自で確認しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 中学校の生徒さんの体験学習を受け入れをしたり、秋祭りには、恒例行事として大々的に地域の方と交流をはかっている。 (外部評価) 自治会に加入している。民生委員より地域の行事など情報提供があり、港まつりや文化祭に参加したり秋祭りの獅子舞を見物するなど楽しんでいる。町主催の防火訓練への参加や、中学生の職場体験を引き受けるなど地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域貢献ができるように、現在役員さん等を通して話し合いをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度、運営推進会議を開き、行事や研修等の報告 をして、参加者のアドバイスや意見を頂き、サービスの 向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、老人会会長、民生委員、 町役場や地域包括支援センター職員、介護相談員、利用 者の参加を得て開催している。入居状況、活動状況、研 修状況、今後の予定など報告し意見交換している。会議 録はユニット窓口に置き自由に閲覧できるようにしてい る。	定期的に会議を開催しているが、意見をもらいやすい 議題を提案し、地域の代表者や家族の参加しやすい日 時を検討するなど、一人でも多くの参加を募り積極的 な意見交換ができるような取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 町職員及び地域包括支援センターの方々に出席してい ただき、情報交換をしている。 町主催の研修に参加している。	
			(外部評価) 町職員と地域包括支援センター職員は毎回、運営推進 会議に参加し事業所の利用状況や活動報告を行い情報交 換をしている。また、わからないことや疑問点は電話で相 談しており、町主催の研修にも参加しているほか、介護 相談員の訪問があり利用者の生活状況を見てもらうなど 協力関係がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者の人権を守ることがケアの基本であるという認識 を全職員が持ち、研修等で得た知識を職員間で共有し、 拘束を行わないケアの実践をしている。危険があり安全 ベルトが必要な場合は、家族の方に同意を得ている。	
			(外部評価) 身体拘束については事例を出して話し合い職員間で確認 し合っている。外に出ようとする利用者には危険が伴わ ない範囲で様子を見守り、声をかけて気分転換を図って いる。また、新聞の掲載記事をファイルにして職員全員 が閲覧し意識付けをするなど、身体拘束をしないケアに 取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修や町独自の取り組みもあり、町主催の研修等には必ず参加し、全職員で話し合いをし、情報を共有している。 また、利用者の変化に注意をはらい、虐待がないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修に参加したり、ミーティングで全職員が共有している。 必要としている利用者か、それらを利用できるよう話し合い、関係機関との橋渡しをしていくことができるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約に関する事項については、契約書、重要事項説明書を詳しく説明している。 また、ご家族様や利用者の不安や疑問については、その都度納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置し、利用者や家族からの要望や意見を引き出せるようにしている。 出された意見はミーティングで話し合い、運営に反映している。	
			(外部評価) 面会時に声をかけて話しやすい雰囲気作りに気を配り、家族から意見や要望を聞いている。スタッフルーム入口には意見箱を設置し自由な意見が出せるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の介護日誌の記入や申し送り、またミーティングをし、意見を述べて反映している。 (外部評価) 管理者は毎月のミーティングで意見が出しやすい雰囲気作りに気を配っている。日頃から職員の意見や提案を大切にしてコミュニケーションを図り信頼関係が構築されており、自由な意見交換ができています。そのことから職員はやりがいを持って業務をこなす長期勤務者が多い。また、法人の病院関係者と一緒に介護技術や看護の研修を実施して職員のレベルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、職員から出された要望および意見は検討し、迅速に反映させている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 資格取得を奨励していると共に、研修に積極的に参加できるように支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者をはじめ多数の職員が勉強会や講習会に参加し、交流を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族さんとの面談時、不安や要望を聞き、入居後も日常の会話の中などから汲み取ることができるよう交流を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の話をしっかり聞いて、小さなことでも見逃さないようにいつでも要望が言える関係を持っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族の要望に耳を傾け、職員間で話し合い、どのように支援していくかを見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) よりよい関係作りをする為に利用者のここの個性を知り、できる事を一緒に行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 2ヶ月に1度、各階のホーム便りを送っている。 面会に来られた時は、日頃の様子を報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知り合いや友人がいつ訪ねてこられても暖かく迎えている。 訪問時には一緒におやつを食べたり、レクレーションに参加していただいている。 (外部評価) 日々の関わりの中で利用者同士の会話やドライブに出かけた車内での会話などから、馴染みの関係を聞き取り把握している。聞き取った内容は職員間で連携し共有している。利用者の知人の面会や地元のお祭りに参加し、行事を懐かしみ馴染みの人と会って話ができるよう支援し馴染みの関係が途切れないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーション等を一緒に楽しんでもらい、コミュニケーションを深めている。 体調の悪い方がいると、声かけしたり気配りをして、お互いに支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 依頼があれば必要に応じフォローし、相談に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中での利用者との会話の内容から一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。困難な場合は、職員全体で話し合い、検討している。 (外部評価) 日常の会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向を把握し職員間でも話し合い共有しており、困難な場合は日頃の様子を見て判断したり、返答しやすい内容を提案し選択してもらうなど工夫している。また家族から意見を聞くなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者のこれまでの生活歴や生活環境等は資料等で把握する。 入居後は利用者との会話および日々の観察から参考にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中、それぞれの方の健康状態などの状態を職員全員が共有し、把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 年2回ケアプランを見直している。担当者会議を開いて、家族や医師からの助言を取り入れたケアプランを作成している。 また、利用者の状況に変化があった場合は、ミーティングで話し合い、随時プランを変更している。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から思いや意向を聞き取り介護計画を作成している。生活に少し慣れた頃1か月程度で見直し、その後は6か月毎に見直しを行い、サービス実施状況を支援経過に記録し担当職員がモニタリングを行っている。また、カンファレンスではモニタリングをもとに職員間で話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、出来事を個別に記録している。 気持ちの変化、状態の変化があった時等は、具体的に記録している。 職員間で情報を共有し、話し合いの場を持ち、実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりのその時のニーズに応じた支援ができるよう体調や状況の変化の把握に努め、対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアの方や役員の協力を頂き、趣味や特技を活かしてもらえ環境作りを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 施設に隣接して病院があるので、変わったことがある時 は受診している。 また、個人のかかりつけ医の訪問診療もしていただい ている。他の病院を受診の際、家族が同行できない時は、 介護タクシーが利用できるよう配慮している。 (外部評価) 家族の希望で今までのかかりつけ医を継続している利用 者もいるが、ほとんどの利用者が法人の医療機関をかか りつけ医としている。通常は職員が付き添って受診して おり、体調不良時や緊急時は往診してもらうことができ 安心感がある。希望で歯科医の往診もあり、適切な医療 を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活での変化や気づいたこと、わからないことは相 談している。対処方法の指示をしてもらっている。月2 回は訪問してもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 短期間で治療、退院ができるよう本人に関する情報（既 往歴、生活歴、日常生活の気づき）を共有している。 また、必要に応じて主治医と連絡が取れる体制をとって いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の変化に応じて家族や医師と話し合い、対応方針 を共有している。 ターミナルケアについて説明し、同意を得ている。 利用者、家族の意向に沿って支援している。 (外部評価) 入居時に事業所が作成している看取り指針に沿って説明 し同意を得ている。これまで3名の看取りを行っている。 利用者や家族の要望に沿って早い段階から話し合 い、医師が中心となり関係者が密に連携を図り、安心し て穏やかに最期を迎えられるよう支援に努めており、話 し合う段階に応じて病院などを選択できるよう配慮して いる。	利用者や家族の要望に沿って看取りを支援している が、職員全員が看取り指針にそって終末期に向けた支 援の方針を共有し、振り返りや勉強会を重ね、より安 心して穏やかに最期を迎えられるような取組みに期待 したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防士の指示のもと、救命講習や緊急時の対応等勉強をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の防災訓練で、消防の方や委託業者等の協力を得ている。 地域の方の協力が得られるように取り組んでいる。 災害の発生時に備え、缶詰・飲料水の準備をしている。 (外部評価) 火災訓練は、年に2回で内1回は消防署の立会いのもと実施しており、リビングの中央にある台所を出火元と想定し建物の両端で待機するという訓練を行っている。また、地震時は耐震性がある建物であるため事業所内に待機することになっている。消火器と消防設備は業者による点検を実施し、長期保存できる缶詰と水を3日分備蓄し非常時に備えている。	火災や地震など災害時には職員だけの対応には限界があり、地域住民の協力が欠かせない。事業所の内部構造や利用者の様子を見てもらい、事業所で実施する消防訓練に地域住民の参加を募るとともに、職員が地域の防災訓練に参加するなど、いざという時の協力体制の強化を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄の声かけ、オムツ交換、更衣時はドアの開閉に気をつけている。 思いやりと尊厳を持った言葉かけをするよう職員全員で取り組んでいる。 (外部評価) 日頃から大きな声を出さないよう、またトイレ誘導は他の利用者にわからないよう声をかけるなど配慮している。また、オムツ交換時は必ず居室ドアを閉めたり、声かけには十分注意しており、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に自己決定してもらうよう声かけし、判断を促している。できないことがあれば、利用者ができるように手助けをするようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとり利用者ののペースに合うよう、より良い一日一日を過ごしていただくよう配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床、就寝時、その日、その時、気温や天気気に気を配り、身だしなみも含め快適に過ごしていただくよう気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立表を参考に、日々同じものや栄養が偏らないよう心配りをしている。 (外部評価) 食材は月に2回の配達を業者に依頼している。野菜は、家族からの差し入れや直接出かけて購入しており、新鮮なものを使用している。調理担当者は、利用者の好みのもを取り入れ冷蔵庫の食材を見て献立を考え調理しており、献立が重ならないようにしたり刻み食や食事形態にも対応するなど配慮している。また、職員は利用者が食べ終わってから、同じテーブルで利用者と同じものを楽しそうに話しをしながら食べている微笑ましい光景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 3度の食事量（おやつも含め）チェックをし、特に水分摂取が少ない方も職員が介助や工夫をしてとっていただいている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の声かけを行い、ご自身でできにくい方も職員が介助を行い、清潔を保つようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 毎日の排泄を記録・チェックを行い、一人ひとりの排泄のサイクル（パターン）を把握し、排泄の支援を行っている。 また、失敗の場合にも周りに気づかれずに行い、自尊心を傷つけないよう配慮している。	
			(外部評価) 排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握の上、タイミングを見計らい声をかけ誘導しトイレでの排泄を支援しており、早めの声かけで失禁が減少している。また、便秘対策では排便チェック表で確認し下剤を使用することもあるが、水分摂取に心がけトイレでの自然な排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックにより、自然に排便できるよう食事や水分に気をつけ、あまりにできない時は医師に指示をもらっている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回入浴していただいている。 体調やご本人の希望にも気をつけ、不安を持たせないよう楽しんでいただくようにしている。	
			(外部評価) 浴室はユニットバスでシャワーチェアを設置しており、足浴をしながらシャワー浴をする利用者もいるが、ほとんどの利用者が浴槽に浸かることができている。週2回の入浴で曜日を決め午前中に対応している。また、毎日一番風呂に入りたい利用者や体調や気分が入らない時は無理強いしないなど、利用者一人ひとりの希望に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の体調や生活習慣・睡眠を配慮し、気持ちよく安眠できるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の処方箋をファイルに閉じて、ミーティングや勉強会をして、職員全体で理解できるようにしている。 服薬時には確認をして注意をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活での役割（洗濯物たたみ、新聞折り）を見つけ、お手伝いしていただいている。 気分転換を図れるよう気をつけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に出かけたり、ご家族と一緒に外出（ドライブ）なども行っている。 (外部評価) 季節や天気に合わせて地域のガーデニングを見学したり、近くの役場や公園に出かけ散歩を楽しんでいる。海岸やスーパーなどにドライブによく出かけたり、初詣、お花見、紅葉狩りなど時候に合わせて出かけている。天気の良い日は、駐車場にあるベンチスペースでお弁当を食べることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来ない方が多く、ホームでは立替金を基本としている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があればその都度対応している。 手紙が届けば本人様にお渡しをして、字が見にくい利用者様には代読している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室、トイレ、台所、浴室では清潔を保つよう常に気をつけており、リビングなどで季節を感じていただくよう工夫をしている。	
			(外部評価) 事業所は2・3階に住居スペースがあり、リビングは広々とし明るく、風通しもよく快適に過ごすことができている。職員は毎日掃除を行い花を生けるなど清潔な環境を心がけている。また、調理場から全体を見ることができ、利用者はソファに座ってテレビを見たり思い思いの場所でゆっくり過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングでは、利用者同士、気のあった方とお話されたり、昔の歌番組やテレビなど出ると前に席を取って楽しんで頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室では清潔をできる限り保ち、ご自身が以前使っていた小物など安心して置いて使っていただくようにしている。	
			(外部評価) エアコン、寝具、クローゼットを常備している。ベッドはレンタルで利用者の生活スタイルに合わせて配置している。また、自分で使っていた家具やテレビ、ラジカセを持ち込み、利用者一人ひとりが普段と変わらない生活ができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者様一人ひとり、安全に注意をしながらできる事を気を配って手伝って頂いている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町858番地
自己評価作成日	平成 28年 1月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 2 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の定着も安定しているので利用者や家族との理解が深くなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は平成15年に開設し12年が経過している。同敷地に法人の病院があり病院関係者と内部研修を実施し職員のレベルアップを図り、また受診や緊急時の往診など確保され、利用者、家族の安心感につながっている。管理者、職員はコミュニケーションが取れ信頼関係が構築されており、業務のやりがいにも通じて長期勤務者が多い。また笑顔が基本であると考え「笑顔から何かが生まれてくる」と職員全員で笑顔で接することを大切に、明るく笑顔あふれる家庭的な事業所となっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム浜っ子

(ユニット名) おあしす

記入者(管理者)

氏 名 西内 美知子

評価完了日 平成 28年 1月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 今年度、基本理念の見直しをし、管理者・職員共に新たな理念を作成できた。 作成にあたって、今ホームで必要な意見を出し合い、日々実践につなげている。 (外部評価) 理念がマンネリ化していると感じたことから、職員全員で話し合い、新しい理念を作成し、今年1月からスタートしている。笑顔が基本であるとし「あなたに笑顔で（自分にされていやなことはしない）、あなたの笑顔で（自信を持ってもらう）、あなたの笑顔で（その人らしい人生が送られるよう）」という理念を作成し、職員同士で声をかけ合ったり、またリビングに掲示し各自で確認しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事や催し物に参加している。 地域のボランティアの方々との交流に努めている。 恒例行事として、秋祭りや中学校生徒さんの体験学習等の受け入れをしている。 (外部評価) 自治会に加入している。民生委員より地域の行事など情報提供があり、港まつりや文化祭に参加したり秋祭りの獅子舞を見物するなど楽しんでいる。町主催の防火訓練への参加や、中学生の職場体験を引き受けるなど地域と交流している。	自治会に加入していることを活かし、積極的に情報を得て利用者と一緒に自治会活動などに参加し地域住民と交流を図ると共に、事業所の行事にも参加してもらい理解を深めるなど、地域に根ざした事業所となるよう取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開き、利用者の近況報告、事業報告をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 年度初めには、一年間の行事や研修等の報告をして、ア ドバイスや意見をいただき、サービスの向上に努めている。 家族様にも参加を呼びかけている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、老人会会長、民生委員、 町役場や地域包括支援センター職員、介護相談員、利用 者の参加を得て開催している。入居状況、活動状況、研 修状況、今後の予定など報告し意見交換している。会議 録はユニット窓口に置き自由に閲覧できるようにしてい る。	定期的に会議を開催しているが、意見をもらいやすい 議題を提案し、地域の代表者や家族の参加しやすい日 時を検討するなど、一人でも多くの参加を募り積極的 な意見交換ができるような取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 町職員や地域包括センターの方々に出席していただき、 情報交換をしている。	
			(外部評価) 町職員と地域包括支援センター職員は毎回、運営推進会 議に参加し事業所の利用状況や活動報告を行い情報交換 をしている。また、わからないことや疑問点は電話で相 談しており、町主催の研修にも参加しているほか、介護 相談員の訪問があり利用者の生活状況を見てもらうなど 協力関係がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修で得た知識等を職員間で共有して、日々のケアの中 で、実践している。	
			(外部評価) 身体拘束については事例を出して話し合い職員間で確認 し合っている。外に出ようとする利用者には危険が伴わ ない範囲で様子を見守り、声をかけて気分転換を図って いる。また、新聞の掲載記事をファイルにして職員全員 が閲覧し意識付けをするなど、身体拘束をしないケアに 取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については、外部研修や内部研修に参加し、今、職員で話し合いをしている。 利用者さんの身体の変化に注意し、虐待がないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修やミーティングで全職員が共有し、必要と考えられる利用者に活用できるように話し合い関係機関との橋渡しをしていくことができるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に不安や疑問点があれば解答し、納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や要望を引き出すように、面会時当に近況をお伝えし意見を頂いたりして、管理者・職員などと話し合い、それらを運営に反映させている。	
			(外部評価) 面会時に声をかけて話しやすい雰囲気作りに気を配り、家族から意見や要望を聞いている。スタッフルーム入口には意見箱を設置し自由な意見が出せるよう配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の介護日誌の記入や申し送り、またミーティングをし、意見を出し、反映している。 (外部評価) 管理者は毎月のミーティングで意見が出しやすい雰囲気作りに気を配っている。日頃から職員の意見や提案を大切にしてコミュニケーションを図り信頼関係が構築されており、自由な意見交換ができています。そのことから職員はやりがいを持って業務をこなす長期勤務者が多い。また、法人の病院関係者と一緒に介護技術や看護の研修を実施して職員のレベルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、ミーティングで職員から出た意見や個々に相談案件等は迅速に反映させている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等に積極的に参加できる様、勤務日程等考慮したり、資格取得の奨励をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 多くの職員が勉強会や講習会に参加できるよう支援をし、交流を持っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 困っていること、要望に耳を傾け、不安を取り除き、安心して生活を送れるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族様との面談の時に、困っていることや不安なことを聞いて、すぐに連絡が取れるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族様の要望を聞き、今後どのように支援していくか職員でカンファレンスを行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で、利用者さん一人ひとりの個性を知り、良い関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム便りをメッセージと一緒に定期的を送らせていただいている。 また、面会時には日頃の様子を報告したりして関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのあった知人などが訪ねて来られたら、楽しい時間を過ごしていただけるような雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 日々の関わりの中で利用者同士の会話やドライブに出かけた車内での会話などから、馴染みの関係を聞き取り把握している。聞き取った内容は職員間で連携し共有している。利用者の知人の面会や地元のお祭りに参加し、行事を懐かしみ馴染みの人と会って話ができるよう支援し馴染みの関係が途切れないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションなどを通して、一人ひとり孤立しないよう関わりを持っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 依頼があれば失礼のない程度に相談に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で利用者と会話をし、話の中からお一人おひとりの思いや希望の把握に努めている。 困難な場合は、職員全員で検討している。 (外部評価) 日常の会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向を把握し職員間でも話し合い共有しており、困難な場合は日頃の様子を見て判断したり、返答しやすい内容を提案し選択してもらうなど工夫している。また家族から意見を聞くなど本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴や生活環境等は資料やご家族様との会話の中で観察したりして参考にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活の中で、一人ひとりの現状を把握して、残存機能を活かした生活を送っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の課題を見つけて、職員でカンファレンスしている。年2回ケアプランの見直しをしている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から思いや意向を聞き取り介護計画を作成している。生活に少し慣れた頃1か月程度で見直し、その後は6か月毎に見直しを行い、サービス実施状況を支援経過に記録し担当職員がモニタリングを行っている。また、カンファレンスではモニタリングをもとに職員間で話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者さん一人ひとり個別に日々の様子や出来事、気持ちの変化を記録している。介護計画の見直しについてのカンファレンスも行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや食事量で、利用者さん一人ひとりの状態をつかんで対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日常会話の中で季節折々、どの場所で何をしていたのかつかみ、折に触れ、馴染みの場所等に外出したりできるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 訪問診療、専門病院、敷地内に併設された病院へ受診で きるよう支援している。	
			(外部評価) 家族の希望で今までのかかりつけ医を継続している利用 者もいるが、ほとんどの利用者が法人の医療機関をかか りつけ医としている。通常は職員が付き添って受診して おり、体調不良時や緊急時は往診してもらうことができ 安心感がある。希望で歯科医の往診もあり、適切な医療 を受けることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活の中で変化や気づき、気になることは相談し対 処方法を指示してもらっている。 また、時には訪問もしていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 今までの病歴、生活歴などの情報を共有している。 必要に応じて、主治医と密に連絡を取れる体制をとって いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の変化に応じ、家族や医師と話し合い、それぞ れに対応している。 本人・家族の意向に沿った支援ができるようにしてい る。 終末期について説明し、同意を得ている。	
			(外部評価) 入居時に事業所が作成している看取り指針に沿って説明 し同意を得ている。これまで3名の看取りを行っている。 利用者や家族の要望に沿って早い段階から話し合 い、医師が中心となり関係者が密に連携を図り、安心し て穏やかに最期を迎えられるよう支援に努めており、話 し合う段階に応じて病院などを選択できるよう配慮して いる。	利用者や家族の要望に沿って看取りを支援している が、職員全員が看取り指針にそって終末期に向けた支 援の方針を共有し、振り返りや勉強会を重ね、より安 心して穏やかに最期を迎えられるような取組みに期待 したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の職員による講習を受けていて、事故発生時のマニュアルがあり、定期的に研修している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の方々に来てもらい、防火訓練を行っている。地域の方々の参加できるようにしている。 (外部評価) 火災訓練は、年に2回で内1回は消防署の立会いのもと実施しており、リビングの中央にある台所を出火元と想定し建物の両端で待機するという訓練を行っている。また、地震時は耐震性がある建物であるため事業所内に待機することになっている。消火器と消防設備は業者による点検を実施し、長期保存できる缶詰と水を3日分備蓄し非常時に備えている。	火災や地震など災害時には職員だけの対応には限界があり、地域住民の協力が欠かせない。事業所の内部構造や利用者の様子を見てもらい、事業所で実施する消防訓練に地域住民の参加を募るとともに、職員が地域の防災訓練に参加するなど、いざという時の協力体制の強化を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄の声かけやオムツ交換時の居室のドアの開閉を気をつけている。 気持ちを害する言葉を使わないようにしている。 (外部評価) 日頃から大きな声を出さないよう、またトイレ誘導は他の利用者にわからないよう声をかけるなど配慮している。また、オムツ交換時は必ず居室ドアを閉めたり、声かけには十分注意しており、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) どんな場でも利用者の判断を促している。 見たいテレビを選択できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調や気分に合わせて、外出やレクリエーションなどをして過ごしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 昼間と夜間の身だしなみ、スカーフ1枚の使い方など、その人らしい身だしなみに気をつけて支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんができる事、喜んでやってもらえる様なことを、一緒に楽しんでやっていける様に支援している。 (外部評価) 食材は月に2回の配達を業者に依頼している。野菜は、家族からの差し入れや直接出かけて購入しており、新鮮なものを使用している。調理担当者は、利用者の好みのもを取り入れ冷蔵庫の食材を見て献立を考え調理しており、献立が重ならないようにしたり刻み食や食事形態にも対応するなど配慮している。また、職員は利用者が食べ終わってから、同じテーブルで利用者と同じものを楽しそうに話しをしながら食べている微笑ましい光景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は記録に残し、一目でわかるようにしている。水分は1日で時間を決め、水分補給が出来るよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとり声かけし、口腔ケアをしてもらい、出来ない人はスタッフが手伝い、口腔内の清潔を保つよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた自立支援を心がけてはいるが、年齢の事もあり、トイレでの排泄が難しいこともある。	
			(外部評価) 排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握の上、タイミングを見計らい声をかけ誘導しトイレでの排泄を支援しており、早めの声かけで失禁が減少している。また、便秘対策では排便チェック表で確認し下剤を使用することもあるが、水分摂取に心がけトイレでの自然な排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫やお薬での対応を一人ひとりに応じた対応でさせてもらっている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 喜んで入浴してもらえるように声かけし、楽しんで入浴できるように一人ひとりの希望も取り入れるように支援している。	
			(外部評価) 浴室はユニットバスでシャワーチェアを設置しており、足浴をしながらシャワー浴をする利用者もいるが、ほとんどの利用者が浴槽に浸かることができている。週2回の入浴で曜日を決め午前中に対応している。また、毎日一番風呂に入りたい利用者や体調や気分で入らない時は無理強いしないなど、利用者一人ひとりの希望に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時々状況に応じて休んでもらうように支援している。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者さん全員の処方箋をファイルに閉じ、職員がいつでも見れるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合う役割を見つけたり、気分転換に外出やドライブをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調を見ながら、ドライブ・買い物など希望に添って行けるよう支援している。 (外部評価) 季節や天気に合わせて地域のガーデニングを見学したり、近くの役場や公園に出かけ散歩を楽しんでいる。海岸やスーパーなどにドライブによく出かけたり、初詣、お花見、紅葉狩りなど時候に合わせて出かけている。天気の良い日は、駐車場にあるベンチスペースでお弁当を食べることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理ができない方が多いため、ホームでは立替金を基本としている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば本人自ら電話できるように支援している。手紙等、必要があれば職員が代読している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日掃除をし、清潔を保っている。 リビング、廊下に季節がわかる飾りつけをしている。 (外部評価) 事業所は2・3階に住居スペースがあり、リビングは広々とし明るく、風通しもよく快適に過ごすことができている。職員は毎日掃除を行い花を生けるなど清潔な環境を心がけている。また、調理場から全体を見ることができ、利用者はソファに座ってテレビを見たり思い思いの場所でゆっくり過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースで孤立しないよう、みんなでレクリエーションをしたり、一人ひとりが居室で過ごせる時間を作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使っていた家具や食器を持ってきて頂き、普段と変わらず安心できるスペースを作っている。 (外部評価) エアコン、寝具、クローゼットを常備している。ベッドはレンタルで利用者の生活スタイルに合わせて配置している。また、自分で使っていた家具やテレビ、ラジカセを持込み、利用者一人ひとりが普段と変わらない生活ができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの能力を理解し、転倒防止の環境作りを心がけている。	